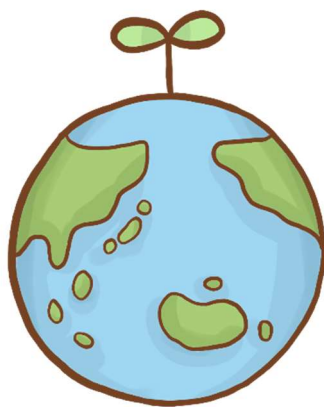
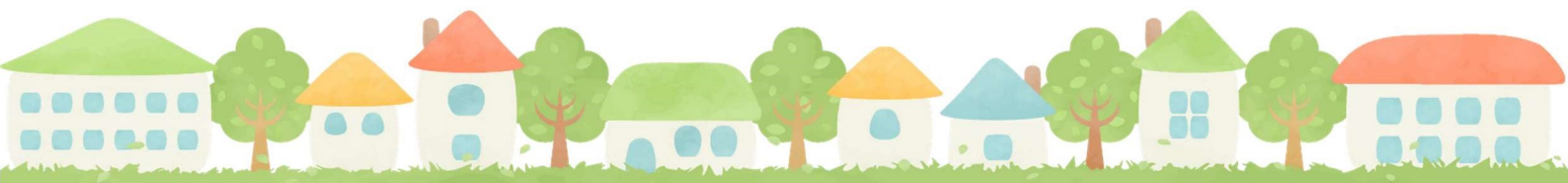




令和6年度
大仙市SDGsレポーター
活動報告書



令和6年11月
SDGs未来都市
大仙市



目 次

1 大仙市SDGsレポーター事業について

(1) 目的	1
(2) SDGsレポーター	1
(3) 活動実績	2

2 主な活動内容

(1) 自己調査・学習	3
(2) SDGsに関する勉強会	3
(3) 企業への訪問学習	4
(4) 調査・学習成果のまとめ、発信	5
① 市広報やホームページでの発信	
② 中学生サミットでの発表	
③ FMはなびでの発信	
④ 活動レポートの作成	

3 活動レポート

(1) 大仙市立大曲南中学校 1年 最上 和香 さん	7
(2) 大仙市立大曲南中学校 2年 秋元 乙羽 さん	9
(3) 大仙市立大曲南中学校 2年 高杉 瑠理 さん	11

4 参考資料

(1) 広報掲載記事	13
(2) 「中学生サミット」発表資料	15

1 大仙市SDGsレポーター事業

(1) 目的

未来を担う若い世代にSDGsへの理解を深めていただくことにより、地域の課題解決や活性化に向けて主体的に考え、行動することができる、持続可能な社会の形成に寄与する人材を育成するとともに、その成果を広く市民の皆さんに発信することで、SDGsの達成に向けた市全体の機運を高め、未来に向けて持続発展するまちづくりをより一層推進していくことを目的とします。

(2) SDGsレポーター

①対象者

市内在住、または市内の学校に通学する中学生

②募集期間

令和6年5月2日～21日

③任命

次の3名をSDGsレポーターに任命しました。

- ・大仙市立大曲南中学校 1年 最上 和香 さん
- ・大仙市立大曲南中学校 2年 秋元 乙羽 さん
- ・大仙市立大曲南中学校 2年 高杉 瑠理 さん



(3) 活動実績

月	日	活 動 内 容
6 月	1 2 日	・ 任命書授与 ・ オリエンテーションの実施（今後の活動内容や流れなどを説明） ・ 勉強会の開催（外部講師：SDGs全般について説明） ・ 自己調査・学習の開始（調査・学習シートを活用しながら実施）
	中旬	市ホームページによる情報発信の開始
7 月	1 日	広報7月号での情報発信
	4 日	・ 勉強会の開催（総合政策課職員：市の取組などについて説明） ・ 発表テーマの選定 ・ 発表テーマに関する調査・学習の開始（発表資料準備シートを活用しながら実施）
	1 9 日	発表資料作成①
	2 3 日	発表資料作成②
	2 9 日	企業への訪問学習 ・ ヤマト運輸株式会社秋田大曲営業所 ・ エイブリック株式会社秋田事業所
8 月	1 日	広報8月号での情報発信
	2 日	・ 発表資料作成③（完成） ・ 発表練習
	8 日	「大仙市中学生サミット」での発表
	9 日	東北SDGs未来都市サミット首長会議での取組事例紹介
	1 9 日	・ 「FMはなび」の収録 放送日：8月26日、28日、30日の3日間 いずれも1日3回放送 ・ 活動レポートの作成
9 月	1 日	広報9月号での情報発信
1 0 月	1 9 日 2 0 日	「大仙市秋の稔りフェア」SDGsコーナーでの情報発信
1 1 月	1 日	広報11月号での情報発信
	2 2 日	大曲南中学校研究発表会での発表
	下旬	大仙市SDGsレポーター活動報告書の公表

2 主な活動内容

(1) 自己調査・学習

SDGsの現状や問題となっていること、目標の達成に向けた取組などについて、「調査・学習シート」などをもとに、各自調査・学習を行いました。

【調査・学習シート内容】

1. SDGsについて
 - (1) SDGsとは
 - (2) SDGsの現状や問題となっていること
 - (3) 調査した内容で「新たに気づいたこと」「特に興味・関心を持ったこと」「感じたこと・考えたこと」など
2. SDGsの目標（ゴール）について
 - (1) 興味・関心のある目標
 - (2) (1)の目標を選んだ理由
 - (3) 現状や問題となっていること
 - (4) 調査した内容で「新たに気づいたこと」「特に興味・関心を持ったこと」「感じたこと・考えたこと」など
 - (5) 目標達成に向けた取組
 - ①日常生活でできる取組
 - インターネット等で調べたもの
 - 調べた取組以外のもの（自身の日常生活でできることなど）
 - ②新たな取組の提案

(2) SDGsに関する勉強会

SDGsへの理解を深めるため、勉強会を開催しました。

①外部講師による勉強会

外部講師をお招きし、SDGsの現状や課題などについて説明していただきました。レポーターの3人は、任命後初めての活動となりましたが、講師のお話に真剣に耳を傾けていました。

【実施日】6月12日（水）

【講師】あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
横手オフィス 社員

②市職員による勉強会

大仙市の現状や課題、SDGsに関する取組などについて説明を行いました。

【実施日】7月4日（木）



(3) 企業への訪問学習

企業がSDGsに取り組む意義や実際の取組を学ぶため、秋田県SDGsパートナーである「ヤマト運輸株式会社秋田主管支店秋田大曲営業所」と、大仙市SDGs取組宣言企業である「エイブリック株式会社秋田事業所」にご協力いただき、訪問学習を行いました。

それぞれのご担当者から具体的な取組などについてご説明をいただいたあと、施設内を見学させていただきました。レポーターの3人は、疑問に思ったことを積極的に質問しながら、熱心に説明を聴いていました。

今や持続可能な企業経営に必須となっているSDGsですが、積極的に取り組まれている地元企業の現場を見聞きし、SDGsの達成に向けた企業の役割や取組について理解を深める貴重な機会となりました。

【訪問日】 7月29日（月）

【訪問先】

①ヤマト運輸株式会社秋田主管支店秋田大曲営業所



②エイブリック株式会社秋田事業所



(4) 調査・学習成果のまとめ、発信

①市広報やホームページでの発信

SDGs レポーターの活動状況や調査・学習成果などについて、市広報やホームページで情報発信を行いました。

【広報】

7, 8, 9, 11月号に掲載し、情報発信を行いました。

▶ 広報掲載記事は13～14ページ

【ホームページ】

市ホームページに専用ページを設け、情報発信を行いました。

▶ 【URL】 <https://www.city.daisen.lg.jp/archive/contents-13854>



②中学生サミットでの発表

レポーター活動のまとめとして、それぞれ調査・学習を進めてきた興味や関心のある目標を持ち寄り、共通の調査テーマに設定した「地球温暖化」について現状や課題を調査し、課題解決のためのアイデアをレポートにまとめました。レポートは、8月8日に開催された中学生サミットにおいて、レポーター活動の紹介とともに発表を行いました。

発表の最後には、参加者の皆さんに対し、『今』と『未来』のために今を生きる私たちは何ができるのか、SDGsの達成に向け、みんなで考え、協力して行動していこう」と呼び掛けました。

【実施日】8月8日（木）

【会 場】仙北ふれあい文化センター



▶ 発表資料は15～19ページ

③ FMはなびでの発信

レポーターの3人がFMはなびに出演し、これまでの活動を通じて感じたことや気持ちの変化、市民の皆さんに伝えたいことなどを発信しました。

初めてのラジオ出演ということもあり、緊張した様子でしたが、収録が始まると自分の思いや考えを自身の言葉でしっかりと話していました。

放送内容は、市ホームページからお聴きいただけます。

【収録日】 8月19日（月）

【放送日】 8月26日、28日、30日の3日間 ※いずれも1日3回放送



④活動レポートの作成

これまで取り組んできた活動全体を振り返り、活動を通じて感じたことや考えたこと、市民の皆さんに伝えたいことなどをレポートとしてまとめました。

▶ 活動レポートは7～12ページ

3 活動レポート

(1) 大仙市立大曲南中学校 1年 最上 和香 さん

① SDG s レポーターに応募したきっかけ、動機

私が通っている大曲南中学校は、とてもSDG s に力を入れています。私もSDG s に関する活動に参加して、より多くのことを学び、知ることができたらと思い応募しました。



② SDG s の達成に向け、「現在行っている取組」と「これから行おうと考えている取組」

地産地消と旬産旬消を心掛けて家族と食材を購入し、食品ロスの削減も意識しながら、普段の食事から環境や自身の健康に配慮した生活を心掛けています。コンタクトレンズの空きケースや空き缶、古紙などのリサイクルにも積極的に協力しています。

今後は、防災に関する取組としてハザードマップの確認や備蓄品の購入など自分の身は自分で守る行動を行っていきたいです。また、F S C 認証※¹の商品を選んで買うだけでなく、周囲の人にも伝えていきたいです。

③ 調査・学習などを通じて「新たに気づいたこと」「特に興味・関心を持ったこと」「感じたこと・考えたこと」など

私たちの身近にあるプラスチックについて特に考えさせられました。プラスチックは自然に分解されず、リサイクルや燃やすこと以外に処理することができないものです。不法に捨てられたプラスチックは、海に流されて海の生物たちが食べてしまったりするそうです。そして、私たちもその海の生物を食べることによって、マイクロプラスチックを体内に取り込んでいることもあるそうです。もちろん海だけのことではなく、日常生活においてもマイクロプラスチックは至る所にあります。プラスチックをリサイクルやごみに出すだけでなく、私たちの日常の生活から少しずつ減らしていくことが重要ではないかと思いました。

※1 環境・社会・経済の3側面に配慮し、適切に管理された森林の木材を使用した製品の証。

④ これまでの活動全般を通じて、感じたことや気持ちの変化など

ヤマト運輸さんでは、温室効果ガス排出量削減のため、E V自動車の導入や太陽光発電設備の導入などを行っているそうです。それだけでなく、気候変動対策活動への投資によるカーボンオフセット※²に取り組んでいるそうです。お客様と一緒に持続可能な成長を実現しようとしているのがお話の中でとても印象的でした。また、エイブリックさんでは、半導体の後工程製造を担い、環境貢献型製品の創出、環境負荷物質の軽減、気候変動への適応に取り組んでいるとのことで、とても分かりやすく、説明していただきました。

FMはなびでの発信については、初めてのラジオ出演でとても緊張しました。声が震えてうまく話せなかったですが、市民の皆さんに少しでもSDGsのことを知ってもらうことができたらうれしいです。

⑤ 市民の皆さんに伝えたいこと

私は、SDGsレポーターになってから、SDGsについて知らなかったことを少しずつ学んでいます。私たちSDGsレポーターが学んだことを市民の皆さんに少しずつでも伝えていけたらと思っています。市民の皆さんにもSDGsについて興味を持ってもらえたらうれしいです。

※2 日常生活や経済活動において排出される温室効果ガスの削減努力を行った上で、どうしても削減できない排出量について、他の場所で実施される削減・吸収活動への投資などにより、埋め合わせること。

(2) 大仙市立大曲南中学校 2年 秋元 乙羽 さん

① SDG s レポーターに応募したきっかけ、動機

私が通っている大曲南中学校では、SDG s の取組を積極的に行っています。私は、SDG s の取組に興味を持っていて、もっとSDG s の取組について深く知りたいと思いました。そして、大仙市が行っているSDG s の取組などを調査し、学んだ成果を市民の皆さんに広く伝えたいと思ったので、大仙市のSDG s の取組にも挑戦してみようと思い応募しました。



② SDG s の達成に向け、「現在行っている取組」と「これから行おうと考えている取組」

私は、部屋を出たら電気をこまめに消したり、お風呂の水を洗濯に再利用したりして、節電・節水に心掛けています。また、ごみの分別や買い物のときにエコバッグを持参するなどの取組を行っています。このような取組をこれからも毎日意識し、地球温暖化の軽減につながればと思っています。

これからは、食べ残しをせず、リサイクル、リデュース、リユースなどにも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

まだまだ、地球温暖化を軽減させていくためにやれることはたくさんあると思うので、まず、何ができるのかを考え、できることから取り組んでいきたいと思っています。

③ 調査・学習などを通じて「新たに気づいたこと」「特に興味・関心を持ったこと」「感じたこと・考えたこと」など

私は、17の目標のうち、特に目標5の「ジェンダー平等を実現しよう」について興味・関心を持ち、詳しく調査を行いました。社会全体で女性よりも男性の方が優遇されていることが未だに多くあるので、男性は仕事、女性は家庭、などといった固定的性別役割分担意識をなくし、男性も女性も生きやすい環境になってほしいと思いました。そして、すべての女性に対するあらゆる差別をなくし、政治や経済、社会の中で、何かを決めるときに女性も男性と同じように参加したり、リーダーになったりして、すべての女性の能力を伸ばして可能性を広げていける社会になってほしいと思います。また、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み、偏見）をなくし、多種多様な人々が自分らしく生きられるような社会にもなってほしいです。



SDGs レポーターとしてSDGsについて詳しく調べる前までは、SDGsの現状や問題についてよく知りませんでした。実際に調べてみると、世界にはたくさんの深刻な問題があることがわかり、前よりもSDGsの達成に向けた取組を積極的に行っていたいと思いました。

④ これまでの活動全般を通じて、感じたことや気持ちの変化など

企業への訪問学習では、低炭素な車や再生可能エネルギーを導入していることや、着られなくなった制服をリサイクルし、また新しい制服を作って着るというエコな取組などをしていました。このような地球に優しい取組によって環境は守られているのだと思いました。

これまで3人で活動してきて、SDGs レポーターになる前よりもSDGsへの意識が大きく変わり、積極的にエコな取組をしたいと思うようになりました。そして、今回初めて中学生サミットに参加するなど、新しいことへの挑戦やここまで3人で頑張ってきたことに達成感を感じています。そして、SDGs レポーターの取組を通じて前よりも3人の仲が深まったと感じています。

⑤ 市民の皆さんに伝えたいこと

SDGs レポーターとして、これまで活動してきて、大仙市は様々なSDGsの取組を積極的に行っていることがわかりました。また、企業で取り組んでいる活動もあれば、一人ひとりが取り組んでいる活動もあります。

誰一人取り残されない持続可能な社会をつくり、今も未来も幸せに暮らし続けていくためには、特に、一人ひとりが自分のこととして、今何ができるのかを考え、行動していくことが大事だと思いますので、市民の皆さんもその意識を持って行動してほしいと思います。

(3) 大仙市立大曲南中学校 2年 高杉 瑠理 さん

① SDG s レポーターに応募したきっかけ、動機

私が通っている大曲南中学校では、総合的な学習の時間にSDG sについて学習しています。私はもともとSDG sについて興味があったので、大仙市が行っているSDG sの取組について知りたいと思いました。また、自分自身もSDG sの達成のためにどのようなことができるのか考えてみたいと思い応募しました。



② SDG sの達成に向け、「現在行っている取組」と「これから行おうと考えている取組」

私は、エコバッグの利用や使わないものをなるべく捨てずに寄付するなど、環境に配慮した行動を心掛けています。また、様々な目標の達成につながる募金に可能な範囲で協力しています。今後は、エコマーク^{※3}などの認証マークがついた商品の購入や商品の手前取り、買いすぎに注意して計画的に商品を購入するなど、グリーン購入^{※4}を心掛けていきたいと思っています。

③ 調査・学習などを通じて「新たに気づいたこと」「特に興味・関心を持ったこと」「感じたこと・考えたこと」など

SDG s達成のためには、まだまだたくさん問題がありますが、その問題を他人事ではなく、自分のこととしてみんなが考え、よりよい未来のために向き合い、行動していかないといけないと感じました。そして、私たちSDG sレポーターが発信した情報がより多くの人に伝わり、SDG sの取組の輪が広がっていけばいいと思います。これからもSDG s達成のために自分には何ができるのか考え、なるべく多くのことに積極的に取り組んでいきたいです。

※3 環境への負担が少なく、環境保全に役立つと認められた商品につけられる環境ラベル。

※4 製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入すること。

④ これまでの活動全般を通じて、感じたことや気持ちの変化など

企業訪問でヤマト運輸さんとエイブリックさんを訪問し、環境に配慮した荷物の輸送、CO₂排出量を削減した製品づくりへの取組などをしていて、どちらの企業もSDGsの環境面に大きく貢献していると思いました。そして、このような企業の取組によって、大仙市の環境は守られていると感じました。

中学生サミットでの発表やFMはなびでのラジオ放送では、学んだことや考えたことをたくさんの人に発信する上で、SDGsについて改めて考え直す機会にもなり、たくさんの人にSDGsのことを伝えられて良かったと達成感を感じました。今までのSDGsレポーターの活動を通してSDGsは一人ひとりが自分のこととして考え、行動していくことが大切だということに改めて気づきました。そして、自分にできることはこれからも継続して行い、積極的に取り組んでいきたいと思います。

⑤ 市民の皆さんに伝えたいこと

私たちはSDGsレポーターとしてSDGsのことをたくさんの人に知ってもらうため、学んだことを広報やラジオ、中学生サミットを通して発信を頑張ってきました。SDGsは私たち一人ひとりが自分のこととして考え、行動することが大切です。特に大仙市はSDGs未来都市に選定されていて、とても優れた取組を行っています。市民の皆さんにもSDGsについてもっと知っていただき、自分のこととして考え、取組を行ってほしいと思います。誰一人取り残されない持続可能な社会の実現のため、今の自分にできることを考え、みんなが行動することが大切だという意識を持って取り組んでほしいです。

4 参考資料

(1) 広報掲載記事

7月号

「今」と「未来」のために、今私たちができること -SDGsレポーターの活動を紹介-



「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現に向けた世界共通の目標「SDGs」。
「今」も「未来」も幸せに暮らし続けるために、今を生きる私たちは何ができるのか。
一人一人が「**自分のこと**」として考え、身近なことから行動していくことが大切です。

大仙市SDGsレポーター

SDGsの達成に向けた新たな取り組みとして、未来を担う若い世代を対象とした「SDGsレポーター」の活動がスタートしました。

この取り組みは、未来のために積極的に行動しようとする中学生の皆さんを「SDGsレポーター」に任命し、調査・学習などを通じてSDGsへの理解を深めていただき、中学生の目線から、学んだ成果を広く市民の皆さんに発信していただくものです。

レポーター活動を通じて、SDGsの達成に向けた市全体の機運を高めるとともに、地域の課題解決や活性化に向けて主体的に考え、行動することができるよう人材の育成につなげていきます。

SDGsについての勉強会を開催

6月12日、市と包括連携協定を締結しているあいおいニッセイ同和損害保険株式会社から講師をお招きし、SDGsの現状や課題などについて説明していただきました。レポーターの3人は、任命後初めての活動となりましたが、講師のお話真剣に耳を傾けていました（下写真）。

今後、レポーターの皆さんには、SDGsに取り組んでいる企業への訪問やFMはなびを通じた発信など、さまざまな活動を展開していただく予定です。活動の様子は、だいせん日和やホームページなどで随時紹介していきます。



SDGsレポーターの（左から）高杉瑠璃さん（大曲南中2年）、秋元乙羽さん（同）、最上和香さん（同1年）



8月号

「今」と「未来」のために、今私たちができること -SDGsレポーターの取り組みを紹介-



「誰一人取り残されない」持続可能な社会の実現に向けた世界共通の目標「SDGs」。
「今」も「未来」も幸せに暮らし続けるために、今を生きる私たちは何ができるのか。
一人一人が「**自分のこと**」として考え、身近なことから行動していくことが大切です。

私は、地産地消と旬産旬消を心掛けて食材を購入し、食品ロスの削減も意識しながら、普段の食事から環境や自身の健康に配慮した生活を心掛けています。また、コンタクトレンズや空き缶、古紙などのリサイクルに積極的に協力しています。

今後は、防災に関する取り組みとして、ハザードマップの確認や備蓄品の購入など、自分の身は自分で守る行動をとってまいります。



最上和香さん
(大曲南中1)



私は、部屋を出たら電気をこまめに消し、お風呂の水を洗濯に再利用するなど、節電・節水に力を入れて取り組んでいます。また、リサイクルを意識したごみの分別やエコバッグの持参、食べ残しをしないなど、日常生活でできることから行動しています。

今後は、まずは地球温暖化を軽減するために何ができるかを調べ、できることから自分のペースで、継続して取り組んでいきたいです。



秋元乙羽さん
(大曲南中2)



私は、エコバッグの利用や使わないものをなるべく捨てずに寄付するなど、環境に配慮した行動を心掛けています。また、さまざまな目標の達成につながる募金にできる範囲で協力しています。

今後は、エコマークなどの認証マークがついた商品の購入や商品の手前取り、買い過ぎに注意して計画的に商品を購入するなど、グリーン購入を心掛けてまいります。



高杉瑠璃さん
(大曲南中2)



「今」と「未来」のために、今私たちができること -SDGsレポーター3人の取り組みを紹介-



「誰一人取り残されない」持続可能な社会の実現に向けた世界共通の目標「SDGs」。「今」も「未来」も幸せに暮らし続けるために、今を生きる私たちは何ができるのか。一人一人が「**自分のこと**」として考え、身近なことから行動していくことが大切です。

SDGsに取り組んでいる企業への訪問

企業がSDGsに取り組む意義や実際の取り組みを学ぶため、秋田県SDGsパートナーであるヤマト運輸株式会社秋田主管支店秋田大曲営業所と大仙市SDGs取組宣言企業であるエイブリック株式会社秋田事業所に協力いただき、訪問学習を行いました。

レポーターの3人は、担当の方から具体的な取り組みなどを説明いただいた後、施設内を見学。積極的に質問しながら熱心に説明を聴きました。積極的に取り組む地元企業の現場を見聞し、SDGsの達成に向けた企業の役割や取り組みについて理解を深める貴重な機会となりました。



エイブリック株式会社



ヤマト運輸株式会社

中学生サミットでの発表

調査・学習を通じて、興味・関心を持った目標を持ち寄り、共通のテーマに設定した「地球温暖化」について現状や課題を調査し、課題解決のためのアイデアをレポートにまとめて発表しました。

発表の最後には、参加者に対し『「今」と「未来」のために今を生きる私たちは何ができるのか、SDGsの達成に向け、みんなで考え、協力して行動していこう』と呼び掛けました。



サミットで発表する3人

「今」と「未来」のために、今私たちができること -SDGsレポーター3人の取り組みを紹介-



「誰一人取り残されない」持続可能な社会の実現に向けた世界共通の目標「SDGs」。「今」も「未来」も幸せに暮らし続けるために、今を生きる私たちは何ができるのか。一人一人が「**自分のこと**」として考え、身近なことから行動していくことが大切です。

「FMはなび」での発信

レポーターの3人がFMはなびに出演し、これまでの活動を通じて感じたことや気持ちの変化、市民の皆さんに伝えたいことなどを発信しました。

初めてのラジオ出演ということもあり、緊張した様子でしたが、収録が始まると自分の思いや考えを自身の言葉でしっかりと話していました。

放送内容は、市ホームページ（下の2次元コード）から聴くことができます。



FMはなびで番組収録

私たちが市民の皆さんに伝えたいこと

○最上和香さん（大曲南中1年）

私は、レポーターになってから、SDGsについて知らなかったことを少しずつ学んでいます。私たちが学んだことを少しでも伝えていけたらと思っていますので、市民の皆さんもSDGsについて興味を持っていただけたらうれしいです。

○秋元乙羽さん（大曲南中2年）

SDGsの実現に向けた活動は、企業で取り組むものや一人一人が取り組むものがあります。今も未来も幸せに暮らし続けていくためには、特に一人一人が自分のこととして、今何ができるかを考え行動していくことが大事だと思いますので、皆さんも行動してほしいです。

○高杉瑠璃さん（大曲南中2年）

大仙市はSDGs未来都市に選定されていて、とても優れた取り組みを行っています。市民の皆さんにもSDGsについてもっと知っていただき、実現のため自分のこととして意識し、今できることを考え、行動してほしいと思います。

(2)「中学生サミット」発表資料

1



2



3



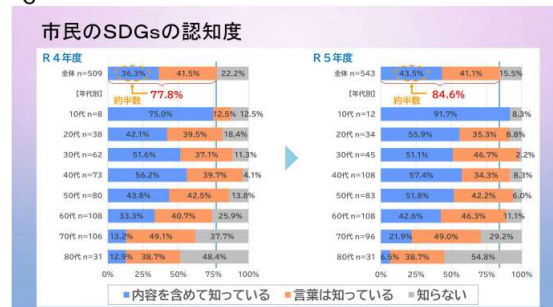
4



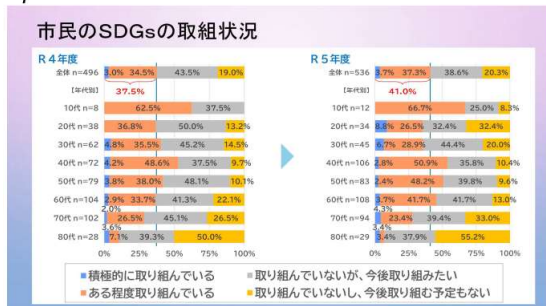
5



6



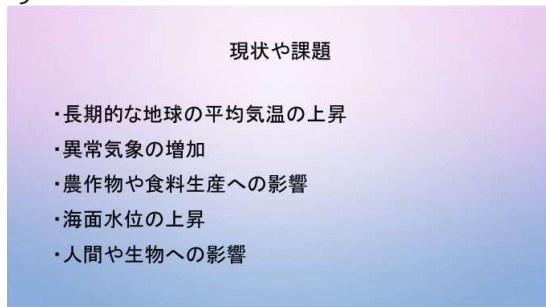
7



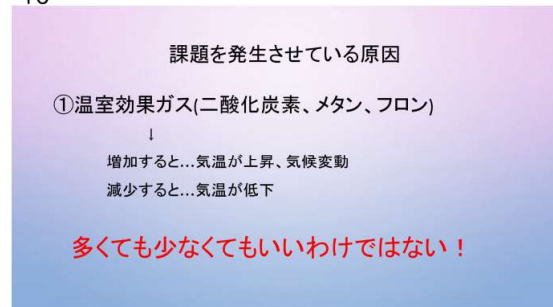
8



9



10



11

課題を発生させている原因

②森林破壊

森林の伐採により砂漠化が進んでいる

森林面積の減少により、CO₂の吸収量も減少

多種多様な生物に悪影響を与えている

12

大仙市の取組

「大仙市ゼロカーボンシティ宣言」表明式



市議会との共同による表明は秋田県内初



大仙市地球温暖化対策実行計画の推進

13

課題を解決するためアイデア

①再生可能エネルギー

→国内で生産できる国産エネルギー源

電気の地産地消

・再エネは環境にはいいが、発電量変動してしまう



再エネ+別の再エネ → 発電



14

課題を解決するためアイデア

②モリンガ(ワサビの木)

一年間117kgのCO₂を吸収できて、吸収量は杉の14倍

豊富な栄養素も含まれているので加工品も！

秋田の名産品にもしたいですね！



大仙市でも育ててみたいですね...



15

課題を解決するためアイデア

③FSCマーク認証商品について大仙市内の小中学校で講演会を開く



販売の特設コーナーを設置する



16

課題解決のため、一人ひとりができること

- ・節電・節水
- ・モリンガの植林
- ・公共交通機関の利用
- ・FSCマーク認証の商品を購入
- ・無駄なエネルギーを消費しない
- ・太陽光発電の電気を利用
- ・電気自動車に乗り換える



17

関係するSDGs



18

「誰一人取り残されない」持続可能な社会の実現には
私たち一人ひとりが「自分のこと」として考え
みんなで協力して行動していくことが重要です

たとえ小さな一歩でも、社会を、そして未来を変える
大きな一歩につながります

「今」と「未来」のために
今を生きる私たちは何ができるのか考え行動しよう！



発表資料作成の様子

【発表内容】

1

これから「SDGsレポーター」として、私たちの発表を始めます。

まず自己紹介ですが、大曲南中学校1年の最上和香です。2年の秋元乙羽です。同じく2年の高杉瑠理です。よろしくお願いします。

はじめに、SDGsレポーターについてですが、これは、大仙市で今年度実施している新たな取組で、未来を担う若い世代である中学生を「SDGsレポーター」に任命し、調査・学習などを通じてSDGsへの理解を深め、中学生の目線から、学んだ成果などを広く市民の皆さんに発信し、SDGsの達成に向けた市全体の機運を高めることを目的として活動を行っています。

2

次に、そのSDGsレポーターの取組を紹介します。

まずは、レポーター任命後、初めての取組として、SDGsについて理解を深めるため、勉強会を行いました。講師に「あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 横手オフィス」の方をお招きし、SDGsに関する現状や課題などについて説明していただきました。

次に、SDGsに取り組んでいる企業を訪問しました。

訪問先としては、「ヤマト運輸株式会社 秋田大曲営業所」と「エイブリック株式会社 秋田事業所」を訪問し、それぞれの企業で行っているSDGsの取組について説明していただいたあと、施設内を見学させていただきました。2つの企業ともに、環境に配慮した様々な取組を行っていることが印象に残っており、市内企業の取組を知る、大変貴重な経験となりました。

3

そのほかに、ホームページや広報での情報発信も行っており、今後、「FMはなび」でのラジオ放送による発信も加え、引き続き情報発信などに取り組んでいく予定としています。

4

次に、大仙市のSDGsの現状や取組について紹介します。

大仙市は、令和4年度に国の「SDGs未来都市」に選定されています。SDGs未来都市は簡単に言うと、SDGsの達成に向けて優れた取組を行っている自治体のことで、大仙市は、約200都市のうちのひとつに選ばれています。SDGs未来都市に選ばれた自治体は、取組を具体化する「SDGs未来都市計画」を策定する必要があり、大仙市の計画では、「2030 年のあるべき姿」として、「Well-beingにあふれ 未来に向けて持続発展する 田園交流都市だいせん」を掲げています。

この Well-being という言葉は、簡単に言うと「幸福」という意味ですが、身体的、精神的、社会的にすべてが満たされた状態で、継続した幸福を意味しています。つまり、今だけでなく、将来も幸福を感じられるような、そうした Well-being にあふれる、未来に向けて持続発展するまちを目指しています。

SDGs未来都市への選定をきっかけに、これまでの取組を強化し、経済・社会・環境の3側面の取組により、相乗効果を発揮しながら、持続可能なまちづくりを推進しています。力を入れている取組としては、若者の活躍・定住に向けた仕組みと環境づくりである「若者チャレンジ応援プロジェクト」や、Well-being の土台となる健幸づくりの推進である「健幸まちづくりプロジェクト」など様々な取組を行っています。

5

こうした取組のほか、SDGsの達成には、一人ひとりが「自分のこと」として考え、行動することが重要ですので、市全体の機運を高め、具体的な行動につなげていくため、情報発信や普及啓発にも力を入れています。SDGs図書コーナーの設置や、ポスター、大曲駅前広告塔の活用、今年の3月には、「SDGs未来都市シンポジウム」を開催するなど、様々な取組を行っています。また、昨年度から実施している「SDGs取組宣言プロジェクト」は、SDGsの取組の「見える化」を図るものであり、市民や企業・団体などの皆さんの取組を募集していますので、ぜひ中学生サミットの皆さんも宣言していただければと思います。

6

こうした情報発信や普及啓発などの取組により、市民のSDGsの認知度は、令和4年度の77.8%から、令和5年度は84.6%に上昇しています。しかし、内容も知っているとは回答している方はそのうち約半数となっていますので、内容も含めたさらなる周知が必要となっています。

7

また、市民のSDGsの取組状況についても、取り組んでいる方の割合は令和4年度の37.5%から、令和5年度は41.0%にわずかではありますが増加しています。認知度と取組状況の割合は、ともに上昇傾向にあります。高年齢世代で割合が低く、年齢が上がるにつれてさらに低くなっています。SDGsは今だけでなく、より良い未来をつくっていくためにも、世代に関係なく取組を進めていく必要がありますので、各世代の格差をなくしていくことも重要となっています。

8

次に、私たちレポーターは、1つのテーマを決め、そのテーマについて、課題や現状などを調べ、課題解決に向けたアイデアなどを考えました。今日はその内容についてもお話したいと思います。

私たちが選んだテーマは「地球温暖化」です。このテーマに選定した理由は、地球温暖化は、経済・社会・環境の3側面のうち、すべての土台となる環境に関する内容で、最も重要ではないかと考えたからです。

9

地球温暖化によって起きている現状は、長期的な地球の平均気温の上昇により、異常気象の増加や海面水位の上昇、それにより農作物や食料生産、人間や生物などに様々な影響を及ぼしています。

10

課題を発生させている原因の一つとして、温室効果ガスがあります。温室効果ガスとは、放出されている熱の一部を吸収し、地表から熱が逃げ出さないようにしているものです。温室効果ガスの大部分を占めるCO₂は、産業革命前に比べ、40%も増加していると言われており、温室効果ガスが増えると気温が上昇したり気候が変化したりしますが、温室効果ガスがないと平均気温は氷点下19度まで下がると言われていています。多くても少なくともいいわけではありません。

11

次に森林破壊です。森林の伐採により砂漠化が進み、森林面積が減少すると、CO₂の吸収量も減少してしまいます。そして多種多様な生物にも悪影響を与え、1年間に4万種類が全滅していると言われていています。

12

地球温暖化に対する大仙市の取組は、令和4年3月に、市議会との共同では秋田県内で初となる「大仙市ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、2050年のカーボンニュートラルを実現するため取組を進めていくこととしています。具体的には、これまで取り組んできた「公共施設への太陽光発電設備の設置」や「飲食店等と協力した食品ロス対策」、さらには、家庭での太陽光発電設備や蓄電池、次世代自動車などの導入を支援する「ゼロカーボンシティ推進事業補助金」などに引き続き取り組んでいくこととしています。また、「大仙市地球温暖化対策実行計画」に基づき、取組をさらに進めていくこととしています。

13

そして、課題を解決するためのアイデアです。

1つ目は、再生可能エネルギーの導入を進めることです。再生可能エネルギーは温室効果ガスを排出せず、国内で生産できることから、エネルギー安全保障にも寄与する低炭素の国産エネルギー源です。つまり電気の地産地消です。しかし、再生可能エネルギーは、環境にはいいですが、自然環境の影響を受けやすく、安定供給に課題があるので、太陽光や風力、水力、バイオマスなど、様々な再生可能エネルギーをあわせて発電することが重要だと思います。

14

2つ目に、モリンガの栽培です。モリンガの樹木は、1本で年間117kgのCO₂を吸収し、その吸収量は杉の約14倍と言われており、「自家用車を約107km走行したとき」や「エアコンを486時間運転したとき」のCO₂排出量と同じぐらいとも言われています。さらにモリンガには豊富な栄養素も含まれているのでいろいろな加工品も作れると思います。大仙市でも育ててみたいと思ったのですが、暑さには強いですが、寒さに弱いので、大仙市の冬は乗り越えられないと思います。ですが、モリンガにはいいところがたくさんあるので、プランターや鉢を利用して、5度以下にならない場所で冬越しに挑戦できるかなと考えています。

15

3つ目は、FSCマーク認証商品について市民の皆さんに知ってもらうため、講演会を開いて販売特設コーナーを設置するなど、FSCマーク認証商品についての認知度を高くする取組が必要だと思いました。

16

このほかにも、課題解決のため、一人ひとりができることとして、節電・節水、モリンガの植林、公共交通機関の利用、FSCマーク認証の商品を購入、無駄なエネルギーを消費しない、太陽光発電の電気を利用、電気自動車に乗り換えるなどがあります。

17

今回発表した一例だけでも、様々な目標に関係していることがわかります。地球温暖化の解決に向けた取組は環境面だけでなく、経済・社会など、様々なゴールにつながっています。こうした広い視野を持つことは、これから様々な取組を行う上で重要だと感じました。

18

「誰一人取り残されない」持続可能な社会の実現には、私たち一人ひとりが「自分のこと」として考え、みんなで協力して行動していくことが重要です。たとえ小さな一歩でも、社会を、そして未来を変える大きな一歩につながります。「今」と「未来」のために、今を生きる私たちは何ができるのか考え行動していきましょう。

以上で、私たちレポーターの発表を終わります。ありがとうございました。



「誰一人取り残されない」持続可能な社会の実現には
私たち一人ひとりが「自分のこと」として考え
みんなで協力して行動していくことが重要です
たとえ小さな一歩でも、社会を、そして未来を変える
大きな一歩につながります

「今」と「未来」のために
今を生きる私たちは何ができるのか
今日から考え、行動していこう！



令和6年度 大仙市SDGsレポーター活動報告書

令和6年11月発行

【編集・発行】

大仙市企画部総合政策課

〒014-8601 秋田県大仙市大曲花園町1番1号

TEL:0187-63-1111（代表）



大仙市
ホームページ